

地域ぐるみの防災対策

自助・共助・公助

災害に対する予防・応急対応・復旧・復興には、住民の皆様と行政機関等がそれぞれ役割を果たし、協力・連携して対策に当たることが重要です。特に被害を最小限に抑えるためには「自助・共助・公助」の効率的な組み合わせが重要です。

◆自助

「自分の身は自分で守る」

飲料水、食料等の備蓄、防災知識、技術の修得、危険回避のための自主避難など、普段から災害に対する準備。

◆共助

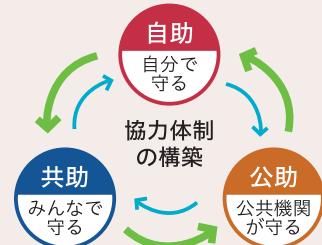
「自分たちのまちは自分たちで守る」

自主防災組織の結成、活動の促進、訓練への参加、相互協力体制の推進。

◆公助

行政機関等（国、府、市、消防、警察、自衛隊など）の活動。各機関とも災害の発生からできるだけ早く応急対策活動にあてられるよう備えています。

自助・共助・公助の連携が必要です。



自主防災組織の必要性

地域住民が連携し自主的に防災活動を行う組織のことをいいます。

◆平常時の活動

- ①防災知識の普及啓発
- ②防災訓練や地域の防災安全点検の実施
- ③防災資機材の備蓄

◆災害時の活動

- ①住民の避難の呼びかけ・誘導
- ②負傷者の救出・救護
- ③初期消火活動
- ④避難所の運営

特に大地震のような大規模な災害時は、交通網の寸断、通信手段の混乱、同時多発の火災などで、消防や警察なども、同時にすべての現場に向かうことはできません。そのような事態に備え、地域住民が連携して地域の被害を最小限に抑えることが自主防災組織の役割です。

あなたとあなたの町を守るために自主防災活動へ積極的に参加し、「災害に強いまち柏原市」を作り上げましょう。



自主防災

いざという時に備えて

避難時すぐに持ち出すべき「非常持出品」と救援物資が届くまでの自足するための「備蓄品」の2つの備えが必要です。リストを参考に必要なものをしっかり準備しておきましょう。

【非常持出品】(参考)…被災時・非常に持ち出すもので、災害の初期段階をしのぐために必要なものです。

出来るだけコンパクトにまとめて、玄関など場所を決めて準備しておきましょう。

□ 生活用品

毛布、缶切り、ナイフ、ティッシュペーパー、ライターなど

避難所生活に最低限必要なものです。赤ちゃんや高齢者等がいる場合などを考慮してそろえましょう。

□ 非常食品

乾パン、缶詰、栄養補助食品、飲料水など

最低3日分は用意しましょう。そのまま食べられるものが便利です。

□ 衣料品

衣類（上下着、靴下）、長袖、長ズボン、防寒用ジャケット、軍手など

衣類は動きやすいものを選びましょう。セーターなどの防寒具も寒い季節には役立ちます。

□ 貴重品

現金（小銭も必要）、預金通帳、印鑑、保険証、免許証など

小銭は公衆電話用、通帳、カード、保険証などは番号を控えメモかコピーしておくとよいでしょう。

□ 医薬・救急品

鎮痛剤、常備薬、包帯、オムツ、生理用品など

定期的に服用している薬も忘れずに。

□ 避難用具

懐中電灯、ラジオ、ヘルメット、予備電池など

懐中電灯はできれば一人につき用意したいもの。

【備蓄品】(参考)…約1週間ほどを想定して、必要な備蓄品を備えておきましょう。

□ 食品

レトルト食品（ごはん・おかゆ等）、インスタント食品、飲料水、など

飲料水は、1人1日3リットルが目安です。

□ 生活用品

給水用ポリタンク、カセットコンロ、ウェットティッシュ、ラップフィルム、ビニール袋、長靴など

ウェットティッシュは、入浴できない時に体がふけるなど重宝します。ラップは、食器の上に敷けば便利です。長靴は、ガレキなどから足を保護するため必要です。

【ローリングストック】

食材を買い置きして「食べ回しながら備蓄する」という考え方です。普段も食べることができて日々持つもの（缶詰やレトルト食品など）を購入し、期限が切れるものから消費し、半分消費した時点でまた、買い足すことで常に一定量を保って備蓄していくことができます。

- ◆賞味期限切れで廃棄するなどの無駄がなくなり、在庫管理しやすい。
- ◆定期的に消費する事で非常食が日常化し、食べなれているものが非常食となる。
- ◆乳幼児や食品アレルギーのある人は、災害時でも安心して食事ができる。

保存性のよい、食べなれたものを少し多めに買い置き

